

遺跡発表1. 佐倉市

さくらしいのじょうあと 佐倉市井野城跡

—もののふが駆け抜けた乱世—

囑託職員 阿部有花

はじめに

千葉県内には中近世の城跡・砦跡・館跡等に関する遺跡が1000箇所近くあり、そのうち佐倉市内には約50箇所、その存在が確認されている。

井野城跡は印旛沼に注ぐ手繰川の支流、小竹川と井野川に挟まれた台地上にあり、佐倉市井野字宮ノ台の八社神社周辺に所在する。南東約400mには佐倉地域の真言宗の中心的な寺院、千手院があり、明徳3年（1392）に臼井から移されたと伝えられている。平成5年には、千葉県教育委員会により中近世城館の分布調査が実施され、井野城跡に関しては土塁で囲まれた主要な区画（主区画）を堅穴状に大きく掘り込んだ特異な構造をしていることが明らかにされた。

調査の概要

当センターでは、井野地区の土地区画整理事業に伴い、八社神社の東側を調査することとなった。調査区域には概念図の北東隅にあたる土塁が含まれ（1号土塁、写真(月)火）、その北側にはわずかな高まりであったがM字型をした土塁状遺構（2号土塁）が確認された。さらにその南側は^{すり鉢}状に窪んでおり、台地整形区画の存在が確認された。

確認調査は平成13年5月14日～同年5月25日に実施され、当地区には奈良・平安時代や中世の遺構が多数あることが予測された。この結果を受けて、平成15年10月27日～同年12月24日まで6300を対象として、今回報告する本調査が実施された。

調査の結果、古代の遺構は平安時代の住居跡6軒、掘立柱建物跡6棟が確認された。当初はより西・南側まで古代の集落が広がっていたが、中世以降に壊されたものと想定される。当地区で奈良・平安時代の建物が検出された例は少なく、貴重な発見である。

中世の遺構としては貯蔵庫もしくは葬送施設と考えられている地下式坑11基、井戸4基、土坑300基、溝15条が検出された。さらに、地面を削って平場を整形した区画が4ヶ所確認された。ここではそれらの台地整形区画を便宜的にA～D区と呼ぶこととしたい。

A・B区は10・11号溝の左右に形成された平場である。規模はA区が東西約35m、B区が東西20m程で、それぞれの区画内に地下式坑や土坑、溝がみられる。溝には地割の役割をもつと思われるもの、踏み固められて硬化していることから道路と推測されるものがある。のちにこの区画では地下式坑や溝を埋め、その上に2号土塁が設けられている。

C・D区は台地中央を大きく堅穴状に掘り込み、内側に平場を設けたものである。長方形を呈し、規模は一辺約20m～30m、地表面から1.5m程低く、神社側の主区画との共通性が高い。C区縁辺部には井戸と多数の土坑、D区縁辺部には井戸と地下式坑が設けられており、地表から区画の内部へ行くのには12号溝を歩いて降りたものと思われる。なお、この溝は西側へさらに伸びており、主区画周囲に現在も残されている道路と通じていると推測される。

出土遺物

今回の調査区域からは整理箱25箱分の遺物が出土した。そのうち中世の出土遺物には、在地で作られたと考えられる内耳鍋や^{すり鉢}、儀礼に使われたと考えられるカワラケ等の焼き物があり、この他に瀬戸・美濃窯製の平碗や花瓶、天目茶碗、中国から輸入した青磁の端反碗等がみられた。

これらはC・D区からの出土が目立ち、15～16世紀にかけて生産されたものが主体的であった。とくに、^{すり鉢}と内耳鍋が多く、このことは食物を^{ないじ}るこ

とや煮炊きをすることが日常的に行われていたことを示している。今回の調査区内で中世の掘立柱建物跡等の生活跡は発見されていないが、付近で日常生活を行っていたと想定することは十分できるだろう。

注目されたのは、C区の土坑やD区の大型井戸から鉄滓や鞆の羽口が出土したことである。このことから、付近で小鍛冶等の作業を行っていたことも考えられる。

さらに、井戸から五輪塔の一部が発見されている(写真(水木))。八社神社境内にも中世の五輪塔の一部がみられることから、この周辺が墓地として利用されていたことが明らかとなった。

時代背景

16世紀前半の房総は、古河公方足利高基と小弓公方足利義明兄弟の対立が周辺に飛び火し、争乱の舞台となった。これを受けて、酒々井町本佐倉城を居城とする千葉氏、千葉市小弓城を拠点としていた原氏は古河公方側、白井氏は小弓公方側につき、天文7年(1538)に相模台(松戸)で両軍が激突した。この戦いで破れた小弓公方側を支持していた白井氏の没落は決定的となり、居城である白井城の城主には原氏を迎えることとなった。その原氏は白井氏の基盤を吸収し、これ以降白井周辺を治めていった。

まとめ

井野城跡周辺を含む印旛沼南岸地域は白井庄と呼ばれ、平安時代末の白井常康を祖とする白井氏が開発領主として繁栄した。その一族には神保、真野、星名、鹿渡、山無、小竹氏等、鹿渡氏の子孫には志津、栗山、小名木氏等があり、地名を苗字としたものもいた。これらの地名は佐倉市から四街道市に広がっている。そして、その周辺に中世城館が多数残されており、白井氏一族との関連が考えられている。

とくに、佐倉市白井屋敷跡遺跡や四街道市池ノ尻館跡では地表面より低い位置に方形をした平場が設けられている点で井野城跡と共通している。池ノ尻館跡およびその南西に位置し、同様の構造がみられ

る千葉市南屋敷遺跡では15、16世紀頃に存続していた城館であることが調査により明らかにされ、いずれも小領主層の屋敷跡と考えられている。地域・年代ともに類似性が高い井野城跡も、同様の性格をもつ可能性がある。

今回の調査区から検出された台地整形区画や溝等は、八社神社周辺に現在も残されている遺構と極めて関連性が高いと考えられる。井野城跡は調査区域から出土した遺物により、15世紀～16世紀代に存続した城館跡であると推測される。そして、後半には地下式坑や溝を埋めて土塁を設ける等の大規模な改修がみられた。神社側の主区画の調査はされていないが、土塁で囲まれていることや今回の調査区よりも要害性の高い台地先端にあることから、周辺の不安定な社会情勢に対応しつつ、しだいに防御性を高めていったと考えられる。

井野城跡の概念図は千葉県教育委員会による「千葉県所在中近世城館跡詳細調査調査票」を加筆修正したもので、作成にあたって、外山信司氏・日暮冬樹氏の御指導、御協力を得ました。末筆ながら御礼申し上げます。



調査風景



第1図 井野城跡概念図 (S=1:2000)



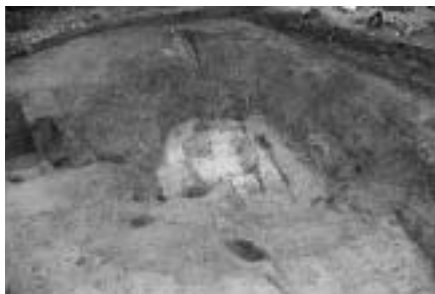
① 航空写真（北から）



② 1号土塁



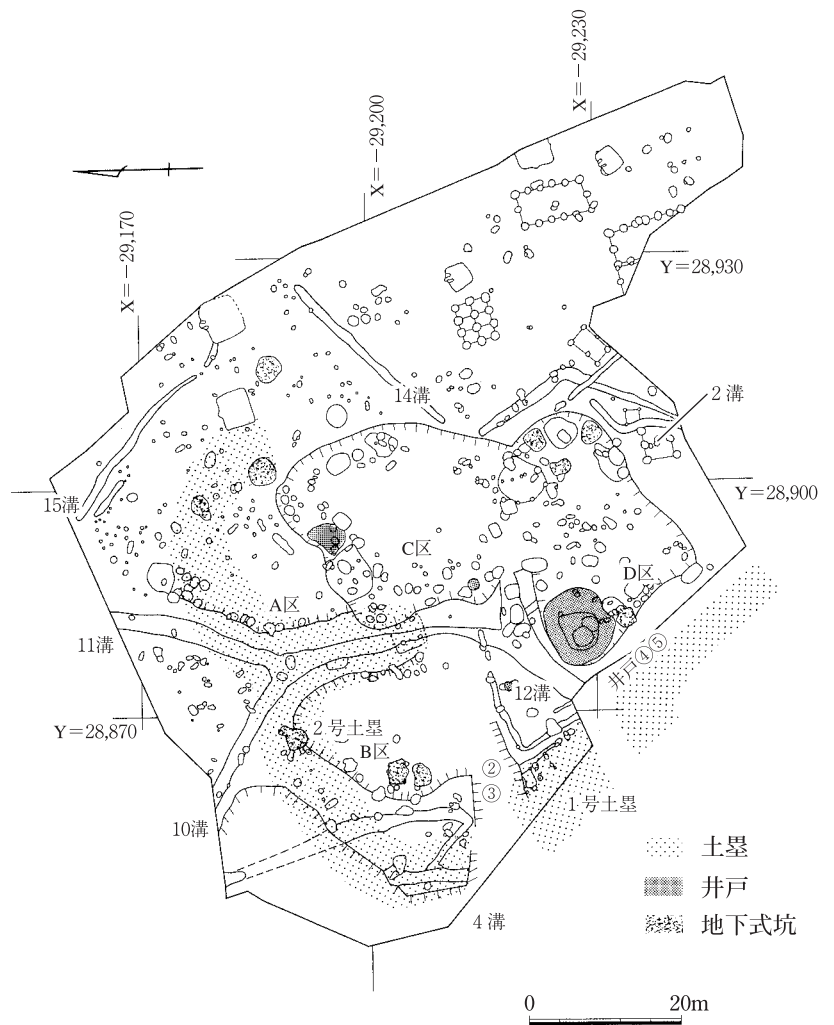
③ 1号土塁土層断面



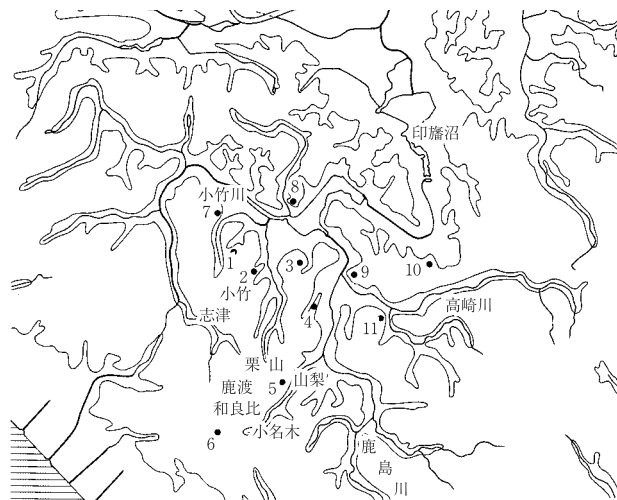
④ 井戸完掘状況



⑤ 五輪塔出土状況



第2図 遺跡全体図 (1/1000)



第3図 周辺の主な遺跡

- 1 井野城跡 2 小竹城跡 3 白井城跡
- 4 白井屋敷跡遺跡 5 池ノ尻館跡 6 南屋敷遺跡
- 7 先崎城跡 8 師戸城跡 9 鹿島城跡 (佐倉城跡)
- 10 本佐倉城跡 12 石川館跡